

公表

放課後等デイサービスにおける自己評価総括表

○事業所名	ことばと発達の相談室		
○保護者評価実施期間	R7年2月1日		～ 同年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	84	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	R7年3月24日		～ 同年3月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い職員構成: 6名の言語聴覚士、1名の作業療法士、1名の社会福祉士という 専門家チームにより、質の高いサービスを提供できます。特に 言語聴覚士が多数在籍している点は、地域の他の施設にはない 強みです。		職員のスキル向上を図る(OJT等、職員研修会の開催)
2	専門職の常勤: 柳川市の発達支援事業所に常勤の言語聴覚士や作業療法士がい ない中で、常勤の専門職を揃えており、安定したサービスを提 供できる点が大きな強みです。	・行政・園・学校との連携を通じて、専門的支援の必要性を実 感していただく。 ・弊社利用のお子さんの成長を通して、弊社の専門力の高さを 実感していただく。	地域との繋がりを深化させる(職員の地域派遣)
3	子どもの支援は親支援: 対象児への専門的支援だけでなく、親支援こそ大切にしていま す。ご家庭や園・学校での困りごとへの相談やアドバイスを、子 育て中の方々の子育て力の底上げを図ることができます。		親や保護者、保育者をターゲットにしたワークショップやセ ミナーをオンラインで開催

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスの欠如: 他の発達支援事業所が送迎サービスを提供している中で、SLC では送迎を行っていないため、特に交通手段が限られている家 庭にとって利用のハードルが高くなります。		車のない家庭を対象としたオンラインサービスの導入
2	規模の小ささ: 小規模事業所であるため、サービスの範囲や対応できる人数に 限りがあり、急増する需要に対応するのが難しい場合があります。	・発達障害や支援に関する知識の低さ ・先進的な市町に比し行政の子ども支援への熱量が低い ・発達支援は子育てであるという意識が低い	障がいの程度に基づいて、1人あたりの利用回数を厳密に選定 する。
3	発達障がい、発達の早期支援、言語聴覚士の認知度の低さ: この地区には、「小学生になれば出来るようになる」「様子を みましょう」といった文化・風潮があるため、地域住民への認 知度を向上させる必要があります。また、言語聴覚士について 認知されておらず、どのようにお子さんに関わる職業なのか知 らない住民が多いと言えます。	・大人が変われば子どもも変わる→大人が変わろうとしない	地元イベントや園・学校の保護者会などで積極的に啓 発活動を行う

公表

保護者等からの放課後等デイサービス評価の集計結果

事業所名 ことばと発達相談室

公表日 R7年 3月 31日

利用児童数

84

回収数

23

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	3		1	・場所を移動し学ぶスペースも用意してもらい部屋全体を使い活動させて頂きます。・安心できる環境です。	当事業所は、大人数で遊ぶようには設定しておりません。また、お子様によって周囲からの刺激の多い中で、集中して活動できるようになることが大きな目標であることから、より日常に近い状況でご本人の力を育ていけるよう努力してまいります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	19	3		1	・学んで帰った後次回が必要で何をしたら良いのかを常に考えてもらっていると思います。	今後もニーズに応えられるよう、努力してまいります。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	7		4	・部屋や物のレイアウトなど、自宅でもマネさせていただいています。・他の施設と比べて、ここでの練習は子どもが集中して取り組む事ができています。	安全に配慮しながらお一人お一人に合わせて対応させていただきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	20	2		1		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1		1	・専門的にいろんなアドバイスを頂いてます。	今後も丁寧な説明と対応を徹底していきます。わかりにくい点等ありましたらお気軽にお問合せください。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19			4		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	1		1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	5				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	5			まずは一つ一つの事をしっかり理解し覚えていく事が必要だと思うので、同じ感じの事を積み重ねて行く指導をしっかりとさせていただいています。	おっしゃる通りです。できた！の繰り返しは次の成長の糧になります。お子様お一人お一人の特性や成長に合わせて、適宜プログラムの難易度や活動内容を変化させています。ご家庭の様子も聞きながら対応してまいります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	7	3	8	5	発達の遅れがあるので、そういった活動は現在は求めていません。	お子さまが通う学校と連携して支援していけたらと考えています。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	1					
13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	1					
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20	2		1			
15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	21	1		1			
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	1					

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	4	1	1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	7	1	5	なかなか参加できてませんが、都合良い時はぜひ参加したいです。・保護者支援はありますが、保護者会はあっているのか分からないです。すみません。	今年度も開催予定ですので、是非ご参加ください。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	2		10		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22		1			
	21	定期的な通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15	2	6		私がHPとかSNSとか苦手ですすみません。	現在お知らせは公式ラインにて発信させていただいております。次年度からはHP更新等もラインでご案内させていただきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	1	4			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	2	8			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	3	5	13		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15	5		3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	6	1	10		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17	4		2		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	4	2		その日に寄ってまちまちでして、、、	行きたくないと感じる時があるのは自然なことと思います。まずはお子さんの気持ちを受け止めるようにし、好きな課題をセッションに盛り込み、「行ったら楽しかった」という体験を重ねられるように少しずつ調整していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	1	1			

公表

放課後等デイサービスにおける自己評価結果

事業所名		ことばと発達相談室	回答率 50% (4/8)		公表日	R7年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1		建物の構造上、階段での移動が必要である。安全にしっかり配慮しながら対応していく。安全性に不安がある場合は、1階での支援に切り替えるなど一人ひとりに合わせた支援を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2		第3者評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	4			
適切な+	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4			

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1		個別での訓練が中心のため、職員全員が全員の内容をすぐに把握することは難しい。空き時間等で情報共有し職員がサポートできるようにしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	4			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1		関係機関との連携は重要である。全職員がこの姿勢を持って支援にあたるように指導していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	1		関係機関との連携は重要である。全職員がこの姿勢を持って支援にあたるように指導していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1		関係機関との連携は重要である。全職員がこの姿勢を持って支援にあたるように指導していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3		保護者同伴のサービスを行っており、児童クラブや学校担任と交流を行うことが職員個々ではできていないが、管理者や代表者レベルで連携を推進している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1		個別支援を行っている関係上、開催日時によって参加できない職員が生じる。時間調整できる代表や管理者が対応に努めている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2		毎回保護者にフィードバックをおこなっている。今後、ペアレントトレーニングの動画配信も企画していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	1		昨年は2回実施したが、利用者の都合もあり参加者数は非常に少なかった。今後も講座等を開催するが、参加者数の状況を見て中止等の判断をしていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	1	3		広報担当を置き相当数の広報を行った。今後はLINEからHPへの誘導を実施する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		当事業所の特性上集団での活動や行事は現在難しいが、地域に開かれた事業所になるような工夫を今後検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1		マニュアルは作成済みであるが、当事業所の特性上利用者全員での訓練は難しい。職員の防災訓練や避難経路の確認を行なっていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	3		当事業所では食物の飲み物の提供を行っていない。利用時のアセスメントにおいて項目を追加確認に努めるようにする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1		安全管理に関する研修会への参加や伝達講習を行い、職員の知識習得に努めるようにする。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1		マニュアル化を検討し、職員が共通の方針で対応できるように整備する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	1		ヒヤリハットについては情報共有しているが、これまでに該当事業が起きておらず事業所独自の事例集作成はできていない。今後一般的なものを参考に作成を検討する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4				